5、6年生が作った新聞です

こおげにし 郡家西小

【学校教育目標】心と体のつよい子どもの育成
【めざす子ども像】この上もなく心と体が剛健で、明るくかしこく、人間性豊かな児童
【沿革】昭和56年4月に郡家町内に6校あった小学校のうち、大御門小学校、国中小学校、育英小学校の一部を統合して郡家西小学校を開校。本年度で創立34年を迎えた。

【学校名】八頭町立郡家西小学校
【所在地】八頭郡八頭町郡家541
【校長名】福田浩則
【児童数】306人

【校章の説明】旧郡家町章と町の花サツキ、郡家西小学校の西を組み合わせてデザインしたものである。郡家西小学校の子どもが郷土郡家を基盤にして、すこやかで豊かに成長することを願っている。（昭和56年4月制定）

最高の遊び場「至剛の森」

大人気のターザンロープは、こんなに高く上がる

郡家西小学校には「至剛の森」と呼ばれる遊び場があります。「至剛の森」は、春は緑に囲まれ、夏はカブトムシやクワガタがたくさん集まります。秋は美しい紅葉を見せてくれ、冬は雪の中、ひっそりとたたずんでいます。四季でいろいろな表情を見せてくれる「至剛の森」は、私たちにとって最高の遊び場です。

その「至剛の森」で一番人気のターザンロープは、順番待ちができるほどです。また、森の頂上に上がる道はいくつもあって、それぞれの道に楽しい場所があるので、飽きることがありません。

そんな「至剛の森」遊べる森になったそうです。私たちは、そうの歴史について調べてみました。もともとは地域の人々が所有されている山の一部ですが、郡家西小学校ができた34年前に、地域の人々の「たくましく育ってほしい」「元気な子どもに」と遊べるように、今の森の環境を保つ努力をしていきたいです。

（浦林健也、田中涼介、野間田元季、平木琉唯）

校訓胸に挑戦の心

体育館に飾られている堂々とした校訓「至剛」

郡家西小学校の校訓は「至剛」であり、意味は「この上もなく、心と体が剛健であること」です。この言葉をテーマにして、私たちはさまざまな行事に取り組んでいます。

学習発表会では緊張や恥ずかしさを押し切って、みんなで良い発表にしようと、一人一人が頑張りました。運動会の応援合戦では、みんなが一生懸命に練習し、心を一つにして力強い声を出しました。行事の時だけでなく、積極的に手を挙げて発表するなど、普段から苦手なことに挑戦しようとしています。

校長先生は「心と体が強いということは、見た目がしっかりしていることだけではありません。苦しい時でも卑怯なまねはせず、自分の人生を切り開いていけるような、かしこくて中身が充実した人間になってほしいという思いで、開校当時の校長先生方が作られた校訓です」と言っておられました。

この「至剛」の精神を胸に、くじけそうになった時も諦めずにがんばっていきたいです。

（早瀬希未、中山夢実、小林愛奈）

一致団結 マーチング

ミッキーマウスマーチの演奏

9月7日、秋季大運動会が郡家西小学校の校庭で行われました。

「一致団結　至剛秋の陣」のテーマのもと、暑い中練習を積み重ねてきました。本番では全校が力を出し切り、力強い郡家西の姿を地域の方に見ていただくことができました。その中でも、5・6年生上げていきます。

演奏する曲は「パフ」「ミッキーマウスマーチ」「茶色の小びん」の3曲です。さらに、間にドラムマーチを3種類はさみます。演奏以外にもカラーガードの力強い旗の振りや、ポンポン隊の元気いっぱいの動きも見どころです。

演技を見た保護者からは「パフの風車がまとまっていて、きれいだった」「昨年と違う構成のところもあり、最後まで楽しめた」などの感想をいただきました。

来年に向けた練習では、新たに4年生が真剣な姿を見せています。心と体の強い郡家西の姿をぜひ見に来てください。

（岩村ありさ、葉狩わか菜、奥田梨奈）

「かかし」で町おこし

地域の発展のために使われているかかし

八頭町には2本足で立つ、個性あふれるかかしが〝何人〟もいます。本来、かかしは一本足で立ち、農作物を守る役割をしています。

かかし作りを体験できる施設「かかし村役場」もあります。かかしの作り方は、はじめに背骨となる木を組み立てます。それを新聞紙などに特徴あふれるかかしがいます。その一つ一つには名前が付けられていて、それぞれつかに思いや願いがこめられています。

かかし作りを体験でかしは、八頭町のかかしは町を発展させる役割を持っています。

郡家の町にも警察署や駅、学校の児童玄関で包み、雨にぬれていることができました。

町おこしの役割をもつかかしは、これからも大切にしていくべきだと思います。ぜひ、かかしの町・八頭に来てかかしを見つけてみてください。

（森木日向大、藪田政哉、髙橋慶多、岡垣聞洸太）

水不足救ったヒーロー

安藤伊右衛門

ここが10㌔ある安藤井手のスタート地点

みなさんは安藤伊右衛門さんという方を知っていますか。安藤伊右衛門さんは郡家西小学校がある八頭町郡家地域の危機を救った人です。

昔の郡家は毎年のように水不足が続き、水争いまで起きていました。そのころ庄屋だった伊右衛門さんは、村人たちが困っているのを知って、用水路を造ろうと決心しました。

伊右衛門さんは全財産を投げ打って用水路を造り始めます。先頭に立って工事を指揮し、3年もの年月をかけて、ようやく用水路が完成しました。

用水路は「安藤井手」と呼ばれて大切にされています。「安藤祭り」を今も2年に1度行い、感謝の気持ちを忘れないようにしています。

総合的な学習の時間に、安藤井手を見に行きました。実際に歩いてみると、想像していたより長くてびっくりしました。こんなに長い距離を、よく工事したと思いました。

用水路には水門があり、その水門ごとにはんこがありました。用水路を使う人々が、交代で見回りやそうじをして、終わったらそのはんこを押すということでした。友達のおじいさんもしているそうで、みんなが大切にしていることが分かりました。私たちも、しっかり守っていきたいと思います。

（倉持大稀、波多野樹、古田悠真、池本梨乃、中田萌絵）

友のために全力で応援

陸上大会でみんなが一つになって応援する児童たち

行事や大会で繰り広げる郡家西小学校の応援は自慢の一つです。

そんな中、特に心に残る出来事がありました。

それはある朝、陸上大会に向けて選手が自主的にリレーのバトン練習をしていた時のことです。6年生の1人の男の子が、練習している選手を見つけて、3階から大きな声で応援してくれたのです。

応援された人は「応援の声で緊張が少しほぐれた」「負けたくないという思いが強くなった」、一方、応援した人は「自分たちの思いが届いて、応援が力になってほしいという気持ちで応援した」「最後まで全力を尽くしてほしいという気持ちが大きかった」と話していました。

応援の力ってすごいと思いました。友達を力いっぱい応援することは、郡家西小学校の誇りです。これからもこの伝統を守っていきたいです。

（西原愛来、今嶋純名、森田真央）

郡家西小学校の応援の特徴は、声を張り上げてみんなが笑顔で応援することと、郡家西小学校でなくてもがんばっている人を応援することです。

応援の声で緊張が少しほぐれた」「負けたくないという思いが強くなった」、一方、応援した人は「自分たちの思いが届いて、応援が力になってほしいという気持ちで応援した」「最後まで全力を尽くしてほしいという気持ちが大きかった」と話していました。

応援の力ってすごいと思いました。友達を力いっぱい応援することは、郡家西小学校の誇りです。これからもこの伝統を守っていきたいです。

（西原愛来、今嶋純名、森田真央）

日本海新聞はNIE（教育に新聞を）活動に力を入れています

毎週日曜日、好評掲載中!!

NIE みみちゃんプレス

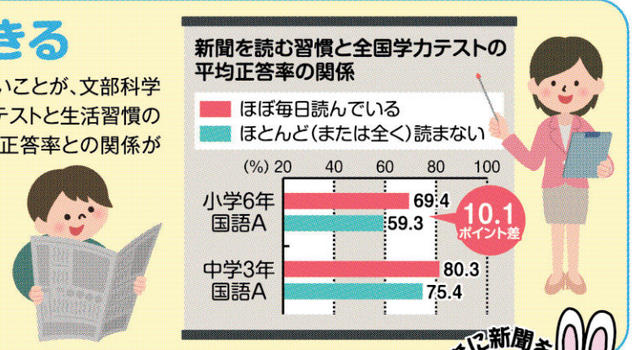
家庭で親子で楽しみ、学校で学習に役立ててもらうため、毎週日曜日付に2ページ掲載しています。「○○って何!?」「何でも発見たのしい観察」「イメージニッポン」「日本と世界のおもしろことわざ」など国語、社会、理科、英語が学べ、4コマ漫画「タイニャーマスク」もあります。

新聞を読む子は勉強もできる

新聞をよく読む児童ほど、全国学力テストで正答率が高いことが、文部科学省の分析調査で明らかになっています。2013年度の学力テストと生活習慣のアンケート結果を併せて分析したクロス集計の結果、平均正答率との関係が見られました。

新聞を「ほぼ毎日読む」児童の正答率は、小学6年・国語Aが69.4％と高かったのに対し、「読まない」児童の正答率は59.3％にとどまっています。

学校だけでなく家庭の中でも、教育に新聞を活用することが学力向上につながると期待されています。



新日本海新聞社

記事の書き方など新聞についての出前授業も受け付けています。
学校新聞、出前授業の問い合わせは電話0857（21）2877、読者販売局読者センターへ